

株主・投資家の皆様へ

第 **97** 期 報 告 書
2016.4.1 ▶ 2017.3.31



- P1 株主・投資家の皆様へ
- P2 「中期経営計画 2019」について
- P3 連結業績ハイライト
- P5 特集・Topics
- P7 企業情報

株主・投資家の皆様へ



株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第97期(2016年4月1日～2017年3月31日)における事業の概況と業績につきまして、ご報告申し上げます。

当期間におけるわが国経済は、個人消費の回復が引き続き弱い動きに留まるなかで、好調な企業収益や海外経済の持ち直しを背景とする設備投資や輸出の回復が牽引する展開となりました。

一方、世界経済は、米国を中心に緩やかに回復していますが、保護主義を標榜する米国新政権の政策動向や欧州各国の政局に加えて、東アジア情勢の緊張の高まり等、先行きの不透明感が高まっています。

このような状況下、当連結会計年度の当社グループの売上高は、化学品事業、建材事業ともに前年の実績を下回り、前期比1.6%減収の494億67百万円となりました。利益面では、営業利益は前期比1.5%減益の78億55百万円と前年を下回ったものの、経常利益は同1.2%増益の82億94百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同20.2%増益の58億37百万円となり、経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高を更新しました。

当社グループは、2019年3月期を最終年度とする3カ年計画「中期経営計画2019」を昨年よりスタートしました。本計画では、次代を牽引する「新規コア製品」の確立を最重要課題として掲げており、化学品、建材の両事業領域において既に複数の製品を候補として設定のうえ、鋭意その育成に取り組んでおります。その進捗には手応えを感じておりますが、2年目となる本年はもう一段スピードを上げ、所期の目標達成に向けて、グループ一丸となって力を尽くしてまいります。

当社グループの原点は、いつの時代も変わらず「製造業」であり続けることです。グループ役職員一人ひとりが創業の理念である「独創力」を体現することにより、価値ある製品とサービスの提供を通じて、株主・投資家の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーに貢献いたします。経営基本方針「コア・コンピタンスに基軸を置いた事業運営」、「イノベーション重視の攻撃的なグローバル・ニッチ企業志向」のもと、世界に通用するエクセレントカンパニーを目指して、引き続きグループを挙げて目標達成に取り組んでまいります。

株主・投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長 兼 C.E.O.

玉城邦男

「中期経営計画2019」について

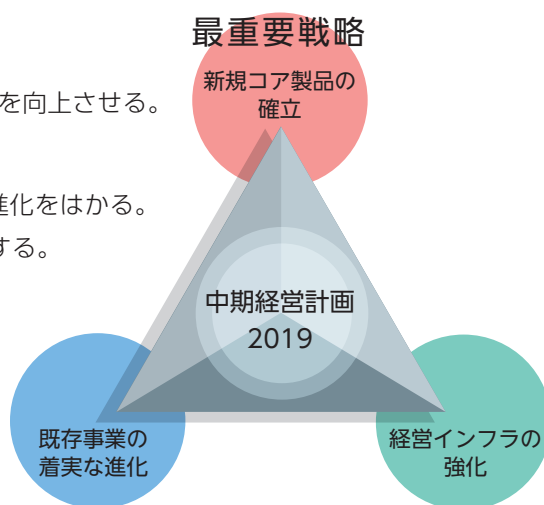
新たな中期経営計画スタートから1年 次代を担う収益の柱を全力で育てる

2016年4月より、2019年3月期を最終年度とする3カ年計画の「中期経営計画2019」がスタートしました。本中期経営計画では、「新規コア製品」の確立を何よりも優先すべき最重要戦略と位置づけました。

「中期経営計画2019」 (2016年4月～2019年3月)

真のグローバル・ニッチ企業として、徒に大なるを求めず、強靱で筋肉質な企業になることを目指します。

- 1 新規コア製品の確立を何よりも重視する**
将来の収益の柱となる製品を集中的に育て、企業価値を向上させる。
- 2 基盤である既存事業の着実な進化**
長期的な展望と緻密で実効性の高い戦略から事業の進化をはかる。
新規コア製品が収益源となるまでの財務的な基盤とする。
- 3 経営インフラの強化**
経営インフラを強化することで、事業戦略を支える推進力とする。



新規コア製品 取り組み状況のご報告

機能材料製品群

高い有機合成力を生かして開発した新規物質
最先端の電気・電子材料の高機能化に貢献



多官能・透明・高耐熱性 樹脂改質剤 グリコールウリル誘導体

耐熱性と透明性を特徴とする 骨格であり、各種樹脂に配合することにより、その性能を高めます。
他と結合する官能基を4つ持つことから、より密度の高い硬化物が期待でき、最終製品の小型・高性能化に貢献します。



難燃・高耐熱性 熱硬化性樹脂 ベンゾオキサジン

樹脂の改質材料として優れた特性を有しており、特に電気・電子材料の特性改良に適しています。
また、複合材料(CFRP等)の樹脂にも適用可能です。

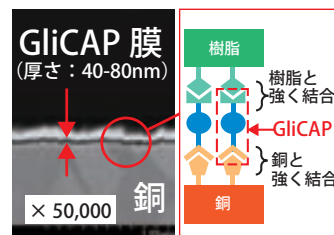
- スピーディな事業立ち上げに向けてプロジェクトチームを組織
- 昨年10月、材料物性の評価能力向上を目的とした物性評価棟が完成

密着性向上プロセス

GliCAP®

銅表面を粗化することなく、化学的に樹脂との密着性を向上させます。

次世代の情報通信機器などで活躍が期待されます。



GliCAP処理後の断面図

バラスト水処理装置向け薬剤

ネオクロール マリーン®

バラスト水管理条約は2017年9月の発効が決定。船舶への搭載準備が進められています。

(JFEエンジニアリングと連携)



アルミシステム塀

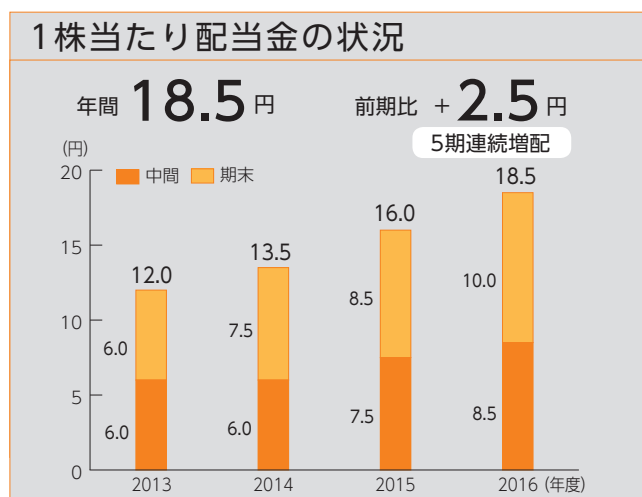
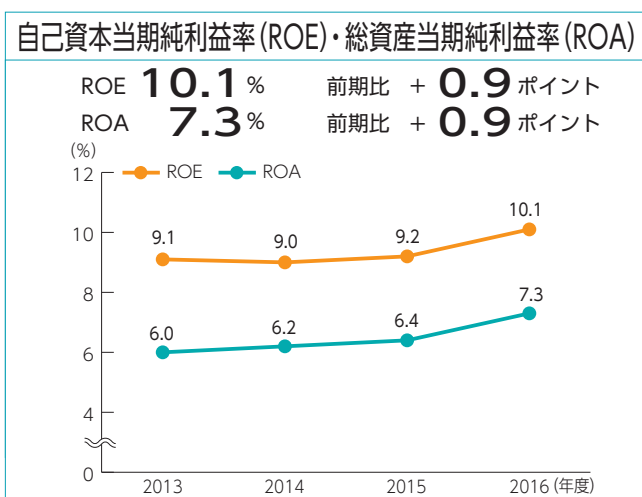
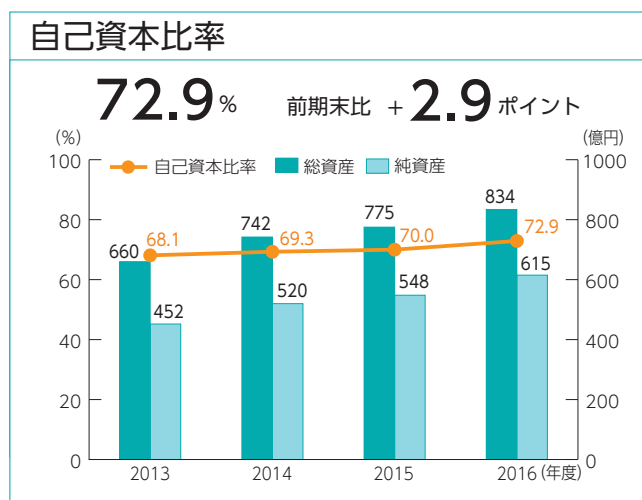
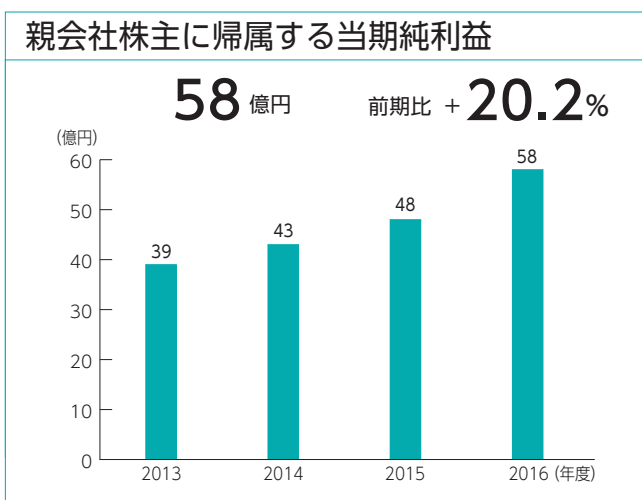
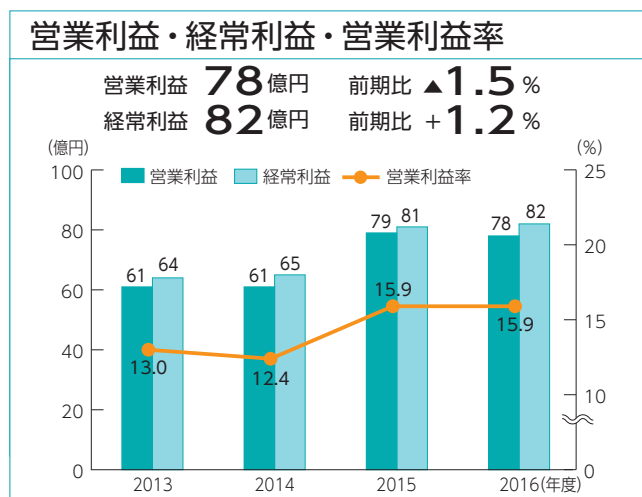
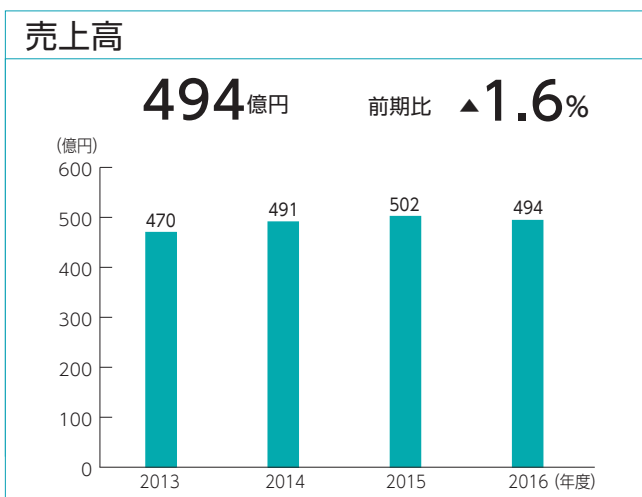
ArtWall®

安全性の高い軽量のアルミ構造体と化粧材を組み合わせた新たなコンセプトの外塀です。



業績のポイント

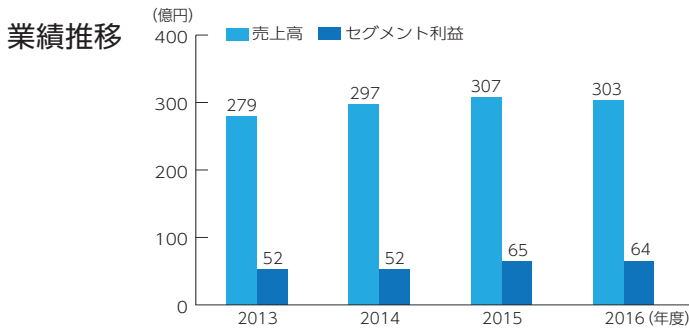
- 経常利益は4期連続、当期純利益は5期連続で過去最高を更新
- ROEが10%を突破し、収益性が着実に向上
- 配当金は前期から2.5円増額し、1株当たり18.5円。5期連続増配



セグメント別事業概況

化学品事業

売上高 **303億25** 百万円
セグメント利益 **64億39** 百万円



不溶性硫黄は、販売は拡大しましたが、円高の影響を受け輸出版売の収益性が低下しました。シアヌル酸誘導品は、国内外ともに好調に推移しました。タフエースを主力とする電子化学材料は、販売が拡大しましたが、円高の影響を受け収益性が低下しました。イミダゾール類を中心とする機能材料は、新規開発品の市場開拓に努めました。

この結果、化学品事業の売上高は303億25百万円 前期比1.4%の減収、セグメント利益は64億39百万円 前期比2.1%の減益となりました。

主要製品

無機化成品

- 不溶性硫黄
(ラジアルタイヤ用加硫剤)
- 二硫化炭素
(化学繊維レーヨンの必須原料)
- 無水芒硝
(入浴剤の温浴効果促進剤、合成洗剤の洗浄助剤)



有機化成品

- シアヌル酸誘導品
(プール・浄化槽の殺菌・消毒剤、船舶バラスト水の殺菌剤)
- ハイボルカ
(排水・汚泥処理剤)



ファインケミカル

- タフエース
(プリント配線板向け水溶性防錆剤)
- イミダゾール類
(エポキシ樹脂の硬化剤、機能材料、医薬品原料)

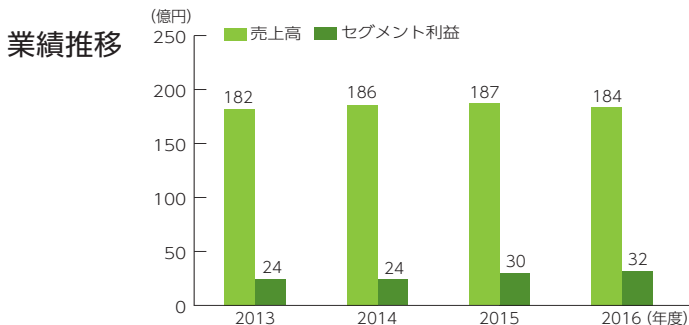


化学品事業 62%



建材事業

売上高 **184億68** 百万円
セグメント利益 **32億39** 百万円



エクステリアは、住宅分野、景観分野ともに横ばいで推移しましたが、収益性が改善しました。壁材は、湿式壁材市場の停滞により、低調に推移しました。

この結果、建材事業の売上高は184億68百万円 前期比1.7%の減収となりましたが、セグメント利益は32億39百万円 前期比5.7%の増益となり、前年を上回りました。

主要製品

エクステリア

- 住宅エクステリア
(門扉、フェンス、カーポート、アコーディオン門扉、アルミシステム塀)
- 景観エクステリア
(大型門扉、大型フェンス、通路用シェルター、自転車置場、ゴミ集積庫、屋上緑化等)



壁材

- 内装材、外装材、舗装材





安全・安心なタイヤを支える「ミュークロン」



自動車をはじめ、航空機や建設・鉱山車両など幅広く使用されているラジアルタイヤ。このラジアルタイヤの原料として、世界第2位のシェアを誇るのが「ミュークロン」(不溶性硫黄)です。

人の命を乗せるタイヤの原料に求められるのは、妥協のない高い品質。タイヤメーカー各社から求められる品質への高い要求に応え続けることで、創業時から培ってきたノウハウを生かし製造技術を磨いてきました。当社の不溶性硫黄は、現代社会に欠かせない自動車、航空機など移動手手段の安全を足元から支えています。

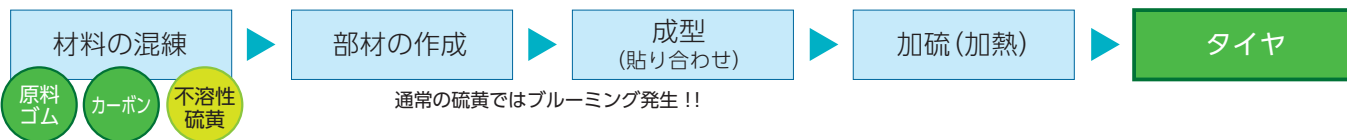
ラジアルタイヤの製造に欠かせない必須原料

タイヤの製造工程における、不溶性硫黄の役割はゴムの加硫剤です。加硫とは、原料の生ゴムに硫黄を加えて加熱することによって起こる化学反応のことで、弾性や強度などが大幅に改善され、ゴム本来の性質を持つようになります。

耐磨耗性・操縦安定性・高速耐久性・燃費など、優れた特性を発揮するラジアルタイヤ。内部にスチール素材のベルトが使用されており、ここに接触する部分のゴムは従来のバイアスタイヤに比べ硬質なものが求められ、硫黄の添加量を増や

す必要があります。タイヤはいくつかのゴムシートを重ねて作っていますが、通常の硫黄では製造工程でゴムの表面に硫黄が浮き出て(ブルーミング)、シート間の接着が妨げられ、走行時にタイヤが破損する恐れがあります。不溶性硫黄は加硫工程を行うまで原料ゴムに溶けず硫黄が浮き出てこない特殊なグレードの硫黄で、ラジアルタイヤの製造に欠かせない必須原料として使用されています。

タイヤの製造工程 (概略)



品質と製造技術向上への不断の取り組みにより、順調に事業を拡大

不溶性硫黄の製造には二硫化炭素が必須であり、当社は、創業製品である二硫化炭素の知識と技術を生かし、1962年に不溶性硫黄の試験生産に着手しました。しかしながら当時は、ラジアルタイヤの普及率がまだ低く需要がなかったため、2年後には一旦、生産を中止しました。

それから20年後の1984年、再び事業化に乗り出します。当時、不溶性硫黄を供給するメーカーは世界に1社しかなく、セカンドサプライヤーを求める大手タイヤメーカーからの要請を受けたものでした。当社が取り扱いに高度な技術を要する二硫化炭素を手掛けていたことから声が掛かったのです。

1984年の操業再開以来、タイヤメーカーが理想とする品質の実現を目指し、品質と製造技術向上への不断の取り組みにより順調に販売先を拡大。約30年を経て当社の主力事業の一つに成長しました。現在、国内・アジアはもとより、欧州・米国をはじめ世界各地のタイヤ工場へ納入しています。



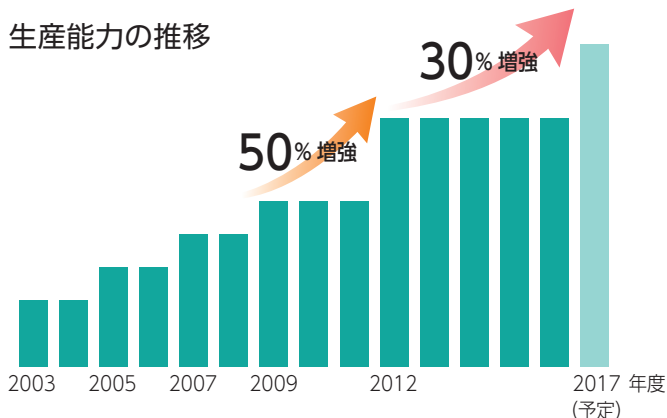
品質保証棟 内部

生産・開発・営業部門が連携し、“事業の着実な進化”を図る

日本をはじめとする先進国では、ラジアルタイヤの普及率はほぼ100%に達しています。一方、新興国でも本格的な自動車の普及や道路インフラの整備に伴い、ラジアルタイヤの需要が伸びています。海外市場は引き続き拡大しており、今後も年率4%程度の成長が予測されています。当社は、市場の成長に遅れることなく順次供給能力の増強を図ってきました。2017年3月には、生産能力を従来の1.3倍に引き上げる能力増強工事が完了、今秋からの本格稼働に向けて準備を進めております。

不溶性硫黄事業は、「中期経営計画2019」で掲げる“基盤である既存事業の着実な進化”を図るべく、生産・開発・営業部門が連携し、引き続き事業の強化に取り組んでまいります。

生産能力の推移



Topics

インテリアの装飾性を高める磨き壁「ルミデコール」を新発売

丹念に磨き上げられた表面に映し出される光や景色が、独特の室内空間を演出する 磨き壁「ルミデコール」を発売いたしました。

左官職人ならではの模様付け仕上げや、2色を混ぜ合わせたマーブル仕上げなど、インテリア装飾としてオンリーワンの磨き壁が出来ます。ホルムアルデヒドや悪臭を吸着分解する機能も備え、快適で心地よい空気環境づくりに役立てていただけます。

これからも、当社の「現代塗り壁 JULUX」は、住まいに快適なやすらぎの空間をお届けしてまいります。



ルミデコール



四国化成 建材

検索

■ 会社概要

会社設立	1947年(昭和22年)10月10日
本社所在地	香川県丸亀市土器町東八丁目537番地1
上場	東京証券取引所 第一部
資本金	68億67百万円
グループ従業員数	1,074名

■ 役員 (2017年6月27日現在)

取締役 相談役	山下 矩仁彦
代表取締役社長 兼 C.E.O.	玉城 邦 男
代表取締役副社長執行役員	田中 直 人
代表取締役副社長執行役員	富田 俊 彦
取締役 専務執行役員	吉岡 隆
取締役 専務執行役員	畑 元
取締役 常務執行役員	真鍋 志 朗
取締役 執行役員	渡邊 充 範
取締役 執行役員	児玉 啓 樹
取締役 執行役員	高木 仁 史
取締役 (社外取締役)	石村 博
取締役 (社外取締役)	渋谷 博
常勤監査役	松原 純
常勤監査役	古川 和 彦
監査役 (社外監査役)	井出 義 男
監査役 (社外監査役)	籠池 信 宏
執行役員	濱崎 誠
執行役員	岸 孝 昭
執行役員	井出 浩 孝
執行役員	小野 昭
執行役員	平尾 浩 彦
執行役員	片山 和 彦
執行役員	真鍋 宣 訓

■ 株式の状況

発行可能株式総数	235,850,000株
発行済株式総数	58,948,063株
株主数	3,770名

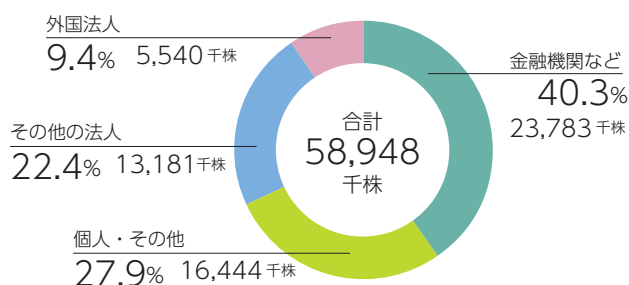
■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清紡ホールディングス株式会社	5,580	9.55
シコク共栄会	4,272	7.31
日本生命保険相互会社	3,295	5.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)	2,640	4.52
株式会社香川銀行	2,500	4.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,975	3.38
株式会社四国銀行	1,750	3.00
株式会社伊予銀行	1,500	2.57
株式会社中国銀行	1,500	2.57
東京海上日動火災保険株式会社	1,414	2.42

(注) ● 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

● 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)の持株数には、株式会社百十四銀行が自己名義で保有している300千株を含めて記載しております。

■ 所有者別株式分布状況



■ 株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
このほか必要ある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
- 公告方法
当社のホームページに電子公告として掲載いたします。
<http://www.shikoku.co.jp>
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

- 株式に関するお問い合わせ先
- 証券会社等に口座をお持ちの場合
お取引の証券会社等になります。
- 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
(郵便物送付先) 〒168-8507
東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行 証券代行部
(電話お問い合わせ先) フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

- 単元株式数変更のご案内
2017年4月28日開催の取締役会決議により、単元株式数を1,000株から100株に変更します。なお、実施日は2017年10月1日です。

■ 株主優待制度について

期末現在における1,000株以上保有の株主様を対象に、地域の特産品(3,000円相当)を一律に贈呈いたします。2017年6月には、地元香川の特産品である讃岐うどんをお届けいたしました。